

★集団的自衛権行使容認の「閣議決定」は許せない、と首相官邸前でおこなわれた抗議行動は6月30日、7月1日の2日間で10万人規模となりました。「戦争するな」「安倍はやめろ」とコールし、夜遅くまでの行動の中心になったのは20代前後の若い世代。

赤旗 読者のひろば

日本共産党
砺波市委員会
西尾 英宣
千代180
Tel 33-6118

戦争をしない・させない

安倍政権は、多くの国民の反対の声を無視し、集団的自衛権行使容認の「閣議決定」を強行。集団的自衛権は、日本が攻撃されてもいないのに、海外で武力行使できるようにすることです。一内閣の勝手な解釈で憲法9条をふみにじり、日本を「海外で戦争する国」へ変えることは、絶対に認められません。

日本は、過去の侵略戦争の反省の上に戦後、平和憲法をつくり、政府に守らせてきました。だから、自衛隊は60年間、よその国の人を殺すことも、殺されることもありませんでした。日本共産党は、平和を愛する国民のみなさんとともに、集団的自衛権行使を許さないために全力を尽くします。

力を合わせよう!



「となみ・9条の会」呼びかけ人 安念 鉄夫 (元砺波市長)・高池 慶 (僧侶)・林 清納 (画家)・藤井 治紀 (彫刻家) は二十八日、円成寺で「9条を抱きしめて DVDとお話しのつどい」を開催、三十数人が参加しました。

高池慶慶さんが「殺す

な、殺させるな、は人間として最も崇高なこと。一人ひとりが声をあげなければ、いまの政権の暴走で大変なことになる」と開会あいさつ。DVD「9条を抱きしめて」を鑑賞：貧困生活から逃れようと、十八歳で海兵隊に入隊したアレン・ネルソンさんは、沖縄での訓練を経て、一九六六年、十九歳でベトナムの最前線に。戦争で心と体を壊された経験をもとに、戦争や暴力の恐ろしさを訴え続けた(枯葉剤の影響と思われる多発性骨髄腫で二〇〇九年死去)。「日本の子どもたちが戦争を知らないのは幸せなこと。みなさんは9条に守られてきた。今度は9条を守るために立ち上がろう」という訴えが胸に響きました。

その後、佐野明弘さん(真宗僧侶。石川県光圀坊に在住。ネルソンさんの葬儀をとり行い、光圀坊の地下に納骨)が講演。ネルソンさんが「防空壕に逃げ込んだとき、水にいた若い女性が破れた。その水はたいへん清らかで、赤ん坊が生まれた。人間は水とともに生まれ、それは涙とつながっている。人は涙を通して人間になる、涙が真実とつながっている」と語られたことなど、参加者は熱心に聞き入りました。ネルソンさんが

解釈改憲急ぐのはアメリカの要求 アーミテージ報告に忠実に実行!

第3次アーミテージ報告(2012年)で「アメリカは世界の一流国。日本も一流国であり続けるためには次のことをやれ」と、「原発再稼働、TPP参加、米日間の価値観共有、日本の防衛の地理的範囲を全世界に拡大、グローバル貿易とエネルギー輸出の中核領域であるペルシャ湾へ日本独自に掃海艇派遣、在日米軍と自衛隊の共同訓練強化」…そして、「集団的自衛権禁止は日米同盟の障害。これを改変するか、平和憲法の改正を」さらに、武器輸出三原則は時代遅れとして「武器輸出の促進」、「秘密保護に関する法律」…。

安倍政権が急ピッチで進めていることは、すべてアメリカの要求に沿った者ものであり「ここまでアメリカに従属するのか」と思ってしまう…。(6月9日「9条の会 北陸ブロック交流会」での平山知子弁護士講演より)

「甥が4月から自衛隊に入り、大変苦しんでいる。在日、中国人の親戚もいる。甥たちのことを考えると胸が張り裂けそう」などの意見や感想が出されました。

★「万全の備えをする」は自衛隊が、日本に戦争を仕掛けようとする国々をけん制する大きな力を持っている。これが抑止力だ。安倍首相は会見で「訴え、解決策を正当化。この抑止力」が日米同盟を意味するとは明らか。集団的自衛権の行使を認めて同盟を強化し、他国を威嚇して日本に対する攻撃を「抑止」する。典型的な軍事同盟肯定の論理です。

【ただのこぼれ】

28日 となみ・9条の会
(一面参照) いやな意味でタイムリーな企画に...

シール投票では「自分の国は自分で守らなきゃいけないから僕は戦争に行く」という男の子も... 市非核平和都市宣言は「砺波市は、憲法にうた

われている平和のうちに生きる権利を確立するため: 未来を託す子どもたちに戦争の悲惨さを語り伝え、平和教育の推進に努めます」と

しています。教育」そのものも変えられちゃいますよね: こんな危険な道をするませるわけにはいきません。

日本共産党演説会

党農林・漁民局長の紙智子 参議を迎えての演説会。紙さ



あなたもコピペがっ!!

▲ http://suzume.blog.bbiq.jp/blog/2014/05/post-d62e.html より



きたので驚き。歴代の政府解

戦争を進めた誤りを認め、軍隊は持たないという平和主義に貫かれているのが今の憲法だと聞かされて、その潔さ、めざす方向の高さと確かさに「素晴らしい!」と誇りを感じたものです。ところがこの憲法を変えるべきだと主張している人たちが居る、しかも政権を担っている人たちの中に大勢居る、ということを知ってひどくショックだったことを覚えています。それでも戦後の精神は昨日まで守られてきました。戦争をしたくないという多くの人々の思いが支えてきたのだと思います。しかし国民の声を意に懸けない政権が事もなげにこれをひっくり返してしまっています。武力によるもめごとの解決がうまくいったなどという事例はあるのでしょうか。合法化された殺し合いで儲ける人や得をする人は居るかもしれませんが、犠牲になるおびたしい人たちの人生と交換できるものは何もないと思います。一もしもの事態への備え」と言いますが、「国を守るためにやむにやまれず」と言わないで戦争をした国はあるのでしょうか? 軍事的な備えを厚くするのでなく、こぶしを振り上げずに物事を解決する技を磨くことにこそ熱くなっしてほしいものだと思わずにいら

閣議決定」抗議宣伝
有事の際に米艦が邦人(民間米国人でも)輸送すること

稲の深水栽培をしておられる田んぼを見学するために新潟に向かう車の中で、大見出しの新聞記事を眺めながら、心穏やかではありませんでした。

29日 9条の会 北陸ブロック交流会
(一面参照) 平山弁護士は「憲法を守り集団的自衛権の行使に反対するたたかいには保守層も参加し、六〇年

積の都合の良い文言だけ抜き出して、一八〇度違う結論を導くなど、ウソとデタラメで武力行使可能な国にするなんて! 絶対許せません!
(何でもお気軽にご連絡・ご相談ください・多田携帯 090-3369-8216)

1日 砺波市子ども子育て会議を傍聴
国の基準に準じた条例づくり:「学童保育について砺波市は一人あたり2平米と

2日 昨日、集団的自衛権の行使を容認する閣議決定がなされました
日本の貴重な価値に無残な傷をつけられてしまったという気がします。
乱暴で大あわてなやり方で、六十年以上の間、雨風にさらされても大切に守られてきたものが、一夜明けてみたら真っ赤なペンキで汚されていた、そんな感じです。
言葉にならない悲惨で過酷な戦争、二度と繰り返さないとの強い決意のもとに、今の不戦を宣誓した憲法が施行されてきたのだと教えられました。

安部閣下時よりも底の広がったたたかいになっており、共同をさらに広げれば必ず阻止することができる」と強調されました。北陸三県から集まった九十人の参加者は、それぞれの経験や今後の活動について交流しました。